

主題：一神様は悔い改めて来る者を探して待っておられるー

2022/4/6 (水曜日)

目標：一悔い改めない正しい人より、悔い改めて来る罪人を愛される神を知るー キリスト伝

後期ユダヤ伝道Ⅱー ②

ルカの福音書 13:1~17、

14:1~15:32

「憐れみ深い神様」

敵意を持つ人々の渦の中から離れ、ヨルダン川の東側に留められた主イエスは、何千もの群衆に囲まれてはいたが、少し心穏やかな時を過ごしておられた。

主イエスは癒しや奇跡をなさりながら、入れ替わり立ち替わり質問しにやって来る者たちに答えられ、食事に招かれた家では、父なる神様がどれほど憐れみ深い方なのか語っておられた。有名な放蕩息子の話をされたのも、この時期である。

主イエスの周りに居たユダヤ人たちは、選ばれた民族としての誇りや歴史、律法についてよく理解していた。しかしそれらを与えてくださった神様を、因果応報の神としてとらえ、神様の御心、思いや憐れみについて、殆ど解かっていなかったのである。

確かに神様がどのような方なのか知ることはなかなか難しい。しかし実は、神様の本当の心は、聖書のみことばを通して、そして御子である贖い主であるイエス・キリストを通して知る事が許されているのである。真の神様はイエス・キリストの父なる神である。

[聖書の学び]

I、人々が知りたいこと (ルカ 13:1~9)

1、災難や困難にあうのは、何故なのか？

①人間の考える答えは因果応報…その人たちが罪深いから (ルカ 13:1~2)

②主イエスの答え……神様は短絡的ではない。悔い改めのときを待っておられる。
(ルカ 13:3~5)

③実のないイチジクの喩え (v6~9)

2、律法とあわれみのどちらが大切なのか？ (ルカ 13:10~17、14:1~5)

①安息日と癒しとどちらが大切なのか？ (ルカ 13:14)

②安息日でもしなければならないこと… サタンからの解放、病から助ける事

・主イエスは 18 年腰が曲がったままの婦人や水腫の人を癒された。

・主なる神の御心は律法ではなく、あわれみである。

3、人の心と神様の御心の違い (ルカ 14:13~24)

①人の心の思い… 心のどこかで、良くしてあげたら報いがあると思っている。
(ルカ 14:12)

②神様の御思い… 人間のお返しを求められない。(ルカ 14:14)

・素直に招きに応じ、感謝されることを非常に喜ばれる。(ルカ 14:21)

・招かれたのに、応じない者、自分の宝を第一にする者を喜ばれない。(ルカ 14:24)

Ⅱ、憐れみ深い父親のような神様 (ルカ 15:1～32)

1、神様は1人の悔い改める者を求めて、諦めず、見つかるまで探し続けて下さる方です。

①100匹の内1匹を探して見つかるまで尋ね求める羊飼いのような方。
(ルカ 15:4)

・見つけ出された羊の喜びのを見て、喜ぶ羊飼い (ルカ 15:5)

②失った銀貨が見つかるまで捜し求める女のような熱心な方である。(ルカ 15:8)

・あるべき場所に戻り、その値打ちが発揮される事を喜ぶ

2、放蕩息子の父のような神様。(ルカ 15:12)

①放蕩息子の成すままにされる (ローマ 1:24)

②弟息子が帰って来るのを、待ち続ける父の心 (ルカ 15:20)

「家まで遠かったのに、父親は彼を見つけて…」

③悔い改める息子を叱らず、反って子として受け入れ、喜ぶ父の心
(ルカ 15:21～22)

④正しく従っているように見えるが、父の心が分からない兄の姿
(ルカ 15:29～32)

* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。